

Ishimaki Elementary School

Geneyal Information



1 学校所在地等

〒441-1112 豊橋市石巻町西浦16番地
TEL 0532-88-0010 fax 0532-87-1016
メールアドレス ishimaki-e@toyohashi.ed.jp
ホームページ <http://www.ishimaki-e.toyohashi.ed.jp>

2 職員・児童数

校長 上野道弘	職員数 17名	学級数 8クラス
男子児童 98名	女子児童 82名	全校児童 180名

3 教育目標

(1) 教育目標

◎心身ともに 健全な石巻っ子の育成
くめざす子ども像>

- よく考える子 (知識、自主、創意工夫)
- 仲よくする子 (友情、生命、礼儀)
- 最後までやりぬく子 (健康、意欲、責任)

(2) 経営方針

- ア. 自ら考え、自ら学ぶ態度を育成し、活力ある学校生活のリズムをつくる。
- イ. 命を大切にする教育を推進する。
- ウ. 共に励み、共に助け合う中で、他を思いやる心豊かな児童の育成をめざす。
- エ. 教師ひとりひとりが意欲と情熱をもち、調和と統一のとれた教育活動を展開する。
- オ. 家庭・地域との連携に力点を置き、『共育』の実践を推進する。

(3) 本年度の重点努力目標

元(気) 本(気) いしま(き)

- ア. 活力ある学校生活のポイントに「あいさつ」を掲げ、すすんであいさつや活動が出来る子を育てる。
- イ. 「聞く」「書く」「まとめる」「話す」活動に力点を置き、発達段階に応じたプレゼンテーション能力の育成を図る。
- ウ. 道徳教育を中心に、自他の命を大切にする心と行動を育てるとともに、ソーシャルスキルをキーワードに、自ら人間関係を創造していくことのできる子を育てる。
- エ. 異学年交流の『なぎの木班活動』を積極的に展開し、石巻小学校の伝統行事等を通してふるさとを愛する気持ちや思いやりの心を育成する。
- オ. 郷土学習の実践や検証を現職研修の中心に位置づけ、教師自ら『半径1.8km圏内の達人』を目指す。

指す。

カ．保護者・地域・学校の三者による「共有」の実現のため、地域の方々が授業や行事に関わる機会を充実し、「おらが学校」の原点回帰に努める。

4 クラブ活動

生け花フラワーアレンジメントクラブ・手芸小物作りクラブ・コンピュータークラブ・イラストクラブ・室内ゲームクラブ・インドアスポーツクラブ・アウトドアスポーツクラブ・クッキングクラブ・ペーパークラフト図工クラブ

5 委員会

集会委員会・運動委員会・環境委員会・放送委員会・図書委員会・給食保健委員会

6 部活動

陸上部・サッカー部・バスケットボール部・駅伝部・音楽部

7 年間の予定

月	儀式的	学芸的	体育的	保健安全的	遠足宿泊的	勤労生産的	その他
4	入学式 前期始業式 退任式	学力検査	体力テスト	避難訓練 交通安全教室	なごの木班 発足会		1年生歓迎集会 授業参観 PTA全体会 学級懇談会
5			運動会		なごの木班遠足	畝づくり 芋のつるさし 530運動	
6			プール指導 開始	避難訓練 自転車教室	野外教育活動	プール掃除 田植え	資源回収 授業参観
7			市内陸上 競技大会	不審者安全教室	わくわく 体験活動	農園草取り	個人懇談会 サマースクール
8			プール指導 修了	水泳検定 着衣水泳		農園草取り	P T A奉仕作業
9				避難訓練 学校保健委員会	いきいき 体験活動 自動車工場見学		給食懇談会 親子清掃 作品展
10	前期終業式 後期始業式	競書会 演劇鑑賞会	市内球技大会			芋掘り 三口池・石巻山 クリーン作戦 稲刈り・脱穀	授業参観 就学時健診
11		野外劇 全校読み聞 かせの会	駆け足訓練	学校保健委員会	修学旅行 123年校外学習	焼き芋集会	生活用品即売会 資源回収
12			マラソン大会 市内駅伝大会				個人懇談会
1				避難訓練	石巻大作戦		家族学級 資源回収
2					4年名古屋見学		新入児保護者会
3	卒業式 修了式						授業参観 PTA総会 6年生ありがとうの会 感謝の会

Application for Participation

Associated Schools Project (ASP) for Promoting International Education

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution (please use extra sheets if necessary)

大好き石巻！

－郷土を愛し、誇りに思う子どもの育成－

Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校は、市北部にある石巻山の麓に位置し、豊かな自然に恵まれ、田園や柿畑が広がっている地域である。創立は古く、明治26年である。かつては、17学級553名という在籍数を抱えたこともあったが、最近では、8学級180名まで減少してしまった。また、校区には県営住宅があり、15%の外国人（主にブラジル人）が在籍し、地域の伝統が失われつつある。しかし、本校には、地域に根ざした伝統的な行事が多くある。一つは、30年の伝統を持つ『なぎの木班活動』という縦割り班活動である。年間を通し活動し、異学年の絆を深める。二つ目は、『野外劇』である。運動場を舞台にし、全校で、一つの演目を演じる。これらの活動や行事を体験した世代が親になり、地域を挙げて協力してくださる。しかし、子供たちは、それが当たり前となり、地域の良さをあまり感じていない。

したがって、『郷土再発見』テーマに、今までに行事を見つめ直すとともに、自分たちが住む町の産業や文化・歴史を学び、そこに生きる人たちとのつながりを深めることで、自分たちが生まれ育った地域に誇りをもち、大切にしていこうと思う子供を育てたいと考える。

Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

上記の『郷土再発見』をテーマにした取り組みをE S Dの推進に結び付けて進めていく活動の3つの柱は、以下のとおりである。

- ① 郷土の自然環境のすばらしさに気づく活動
- ② 郷土に生きる人にふれあい、郷土を大切にしていこうという思いにふれる活動
- ③ 郷土に伝わる文化や伝統を受け継ぐとともに未来へつなげる活動

Execution (プロジェクトの実施)

- ① 郷土の自然環境のすばらしさに気づく活動

・学校林の活用

石巻山中にある学校林を活用して、環境を守っていきこうという気持ちを6年間で系統的に活動を組み、育



学校林で秘密基地を作り遊ぶ1年

んでいく。

○学校林で遊んだり、そこにあるものを使って工作をしたりする。(低学年)

○石巻山に育つ希少な植物や動物を調査する。(中学年)

○巣箱や看板を取り付け、環境保全を呼びかける。(高学年)

・石巻山大作戦

2月、なぎの木班活動の集大成として、班ごとに石巻登山を行う。途中にチェックポイントがあり、PTA委員が6年生が考えた問題を出題する。山頂付近の鎖場や頂上では、親父の会の人たちが、子どもたちを見守ってくださる。



石巻大作戦でクイズに答える子どもたち

班で協力し合い、高学年が低学年を思いやり、低学年は高学年を敬う気持ちを育てる。

・三ツ口池・石巻山クリーン活動

11月、地域の人たちとボランティア参加の小中学生が石巻山とその麓にある三ツ口池の周辺の清掃活動を行う。三ツ口池周辺では、毎年植樹も行われ、少しずつだが、公園化に向けて整備されている。子どもたちは植樹の手伝いも行ふ。

ペットボトルやお菓子の包み紙を拾いながら、また、不法投棄物を見つけたりしながら、自然を守ろうという意識を育てる。



ごみを拾いながら石巻山に登る子どもたち

② 郷土に生きる人にふれあい、郷土を大切にしていこうという思いにふれる活動

・これからの柿栽培のあり方を考える原田夫妻



原田農園を訪れた2年生のグループ

校区は、柿やブドウ栽培が盛んであるが、生産者の高齢化と後継者不足が大きな問題となっている。原田さんご夫婦は、退職後、柿の木のオーナー制や、今まで商品として売れなかった規格外の柿を加工して売る会社を立ち上げた。他にも、農業を大切に思い、工夫されている方たちが、たくさんみえる。子どもたちの郷土を学ぶ学習の中にこの人たちのがんばりを感じさせたい。

・三ツ口池を地域の憩いの場にと取り組む紅の会のメンバー

三ツ口池の清掃活動のボランティアは、高学年の児童以外は、保護者同伴でしか参加できない。したがって、子どもたちの意識は低く、参加者数は決して多いとは



思いを語る紅のメンバー小柳津さん

いえない。三ツ口池周辺を校区の憩いの場にしようとする自治会や紅の会の人たちの思いは、子どもたちには伝わらない。そこで、低中学年のときから、生活科や総合的な学習の中で取り上げ、石巻山や麓のわき水や三ツ口池を自慢できる場所と感じ、地域の人たちと一緒に頑張って大切に守っていこうという気持ちを育てたい。

・東頭神社の祭りを未来につなげるために活動する服部さんたち

昔は、村芝居もあったという地域の祭りだが、参加する子どもの数の減少を心配し、服部さんを中心に新しくお囃子を作った。その活動過程を学ぶことで、子どもたちは積極的に祭りに参加し、伝え残していこうという気持ちが高まり、地域と子どもたちが一緒になって祭りを盛り上げていくであろうと考える。

③ 郷土に伝わる文化を受け継ぐとともに未来へつなげる活動

・野外劇

本校の野外劇は、30年以上の歴史がある。郷土に伝わる民話をもとに創作された、「てんてんてんぐの舞いおどり」「笛吹ジンゴ」「ダイダラボチ」の3本を毎年順に演じている。「てんてんてんぐの舞いおどり」は『命』、「笛吹ジンゴ」は『人』、「ダイダラボチ」は『自然』をテーマにしており、練習や上演することを通して、自然を大切にする思いや命の尊さ、人と人とのつながりの大切さを感じ取ってほしいと願っている。



H25 野外劇「てんてんてんぐの舞いおどり」

・和太鼓部

和太鼓部は、4年生以上の希望者で構成される部活動である。地域の外部講師の指導もあり、多くの児童が入部する。校内の活動だけにとどまらず、地域の行事にも積極的に参加している。夏祭り、文化祭、敬老会などで活躍している。また、地域の神社の祭りのお囃子では、低学年の指導にも当たる。地域の行事に自分たちも参加しているという思いを育て、地域の一員である自覚をもたせたい。

・郷土の祭り

地域には、信仰の山『石巻山』の北側と南側に2つの神社がある。それぞれの地域で伝統的な祭りが継承されている。中学年の総合的な学習の中で歴史や氏子の人たちの思いを知り、大切に受け継ぎ守っていこうという気持ちを育てていきたい。

地域学習カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	学校たんけん 校区たんけん					秋の石巻山であそぼう ・秘密基地をつくろう ・どんぐりや木の実であそぼう				冬の石巻山であそぼう ・まつばすべりをしよう		
2年	もっと校区を知ろうたんけん わき水 三輪川（ホテル） ザリガニ・クワガタとり					三口池 カキ・ブドウ・イチゴ 木の実や木の葉でそめよう						
3年	校区お宝探し わき水・ホテル 神社・寺		校区の農業（果樹栽培・畜産業） イチゴ・ブドウ・カキ イチジク・サクランボ			校区の商業（スーパー） カネツ・磯野商店		校区の工業（工場） アイセロ・鉄工所・自動車修理工場				
4年	水（三口池から浄水場へ）ごみ（産業廃棄物施設、三口池・石巻山クリーン作戦） 石巻山は自然の宝庫、歴史・文化の宝庫・・・・・・・・・・紹介パンフレットを作ろう 【学校林の木で作ろう（図工）】 しいたけを育てよう											
5年	しいたけを育てよう 【看板を作ろう（図工）】 米作り（石巻の米作り農家に学ぼう） → 稲刈り・脱穀・精米・もちつき 福祉にやさしいまちづくり（ケアハウス・授産所・保育園・敬老会・自治会）											
6年	しいたけを育てよう 【巣箱を作ろう（図工）】 → （収穫） 郷土の歴史 古代人 南北朝時代 江戸時代 自分の生き方を考えよう ・・身近な人の思い・・・・・・地域で働く人の思い・・・・・・将来の自分・未来の石巻 石巻大作戦 石巻クイズ											
なぎの木班活動・他	なぎの木班発足会（石巻山ウォークラリー） 1年生歓迎会 なぎの木班対抗運動会 サツマイモ栽培（なぎの木農園） 畝づくり・苗さし・・・・・水やり・草取り・・・・・芋ほり 焼き芋集会 なぎの木タイム なぎのきそうじ 石巻大作戦（石巻登山） 6年生ありがとうの会 野外劇 感謝の会											

Type of materials to be used（使用する教材）

① 郷土の自然環境のすばらしさに気づく活動

- ・学校林の活用・・・板・工具（鋸・金槌など）
椎茸栽培の講師
- ・石巻山の自然や歴史・文化・・・自然史博物館学芸員・地元歴史家
- ・石巻山大作戦・・・石巻山固有の動植物の資料
- ・三口池・石巻山クリーン活動・・・軍手・ゴミ袋・スコップ

② 郷土に生きる人にふれあい、郷土を大切にしていこうという思いにふれる活動

- ・これからの柿栽培のあり方を考える原田夫妻・・・原田農園・（株）柿工房
- ・ブドウの温室栽培
- ・三口池を地域の憩いの場にと取り組む紅の会のメンバー など

③ 郷土に伝わる文化を受け継ぐとともに未来へつなげる活動

- ・野外劇・・・「てんてんてんぐの舞いおどり」「ダイダラボチ」「笛吹きジンゴ」

- ・和太鼓部・・・夏祭り・校区文化祭に参加
- ・石巻神社「鬼祭り」「管粥祭」
- ・東頭神社「お囃子」
- ・郷土の伝わる民話、伝説・・・「ダイダラボチ」「庄屋庄右衛門と一本松」
「秋葉神社代参と竜」「提灯」「雨乞いの神事」

Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

- ・授業や行事を実践していく中で必ず振り返りを実施し、子どもたちの自己評価を大切にする。
- ・単元の流れを【つかむ】→【深める】→【広げる】活動とし、【広げる】活動では、地域への発信を位置づける。発信の方法は、学年や単位によって多様ではあるが、その中で語る郷土のよさや未来への思いを評価する。
- ・郷土や学校に伝わる伝統的な文化に、「真剣に取り組む、みんなで成功させよう」という思いを、練習や行事後の振り返り（日記・作文・絵など）で客観的に評価する。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター（※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会）に活動のレポートを提出します。）

2014.3.26

Date (日付)

Position: School Principal

Institution's name:

Ishimaki Elementary School